

生田緑地におけるヒロズイラガ *Naryciodes posticalis* Matsumura, 1931 の記録

横田光邦*・佐野悦子*・宮内隆夫*

A record of *Naryciodes posticalis* Matsumura, 1931 in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota*, Etsuko Sano* and Takao Miyauchi*

はじめに

ヒロズイラガ *Naryciodes posticalis* Matsumura, 1931 は北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布するイラガ科の日本固有種であり、幼虫はムクロジ科(カエデ類各種)、カバノキ科(クマシデ *Carpinus japonica* Blume、サワシバ *Carpinus cordata* Blume)などを食餌植物としている(岸田ほか, 2013)。以前は成虫の形態からヒロズコガ科(Tineidae)の1種とされていたが、幼虫が判明しイラガ科であることがわかった経緯がある(杉, 1987)。

神奈川県内では今まで県央西部や丹沢(中島ほか, 2004)、津久井方面(中島ほか, 2018)から記録があった。

採集記録

[多摩区]Sexs.(亜終齢), 多摩区枳形, 18-VIII-2022, 横田光邦採集

筆者らは、2022年8月18日に生田緑地内で蛾類の幼虫探索を行っていたところ、生田緑地内の奥の池付近にある1m程度のイロハモミジ *Acer palmatum* Thunb. (1784) 幼木で、複数個体の幼虫を発見した(図1)。



図1. イロハモミジ葉裏のヒロズイラガ *Naryciodes posticalis* Matsumura, 1931 亜終齢幼虫(写真下が頭部)

いずれも葉裏に単独で静止しており、同じ木で亜終齢幼虫5個体を確認した。周辺には植栽されたイロハモミジが多数あったが、それらからは幼虫を見出すことはできなかった。

おわりに

本種幼虫は八王子市の高尾山では比較的観察しやすく、8~9月にカエデ類の幼木で良く見られる。終齢幼虫であっても体長は8mm前後と小さく、形態がカタツムリに似ていることから、見過ごされていることが多いと考える。食餌植物は、関東地方では山地の沢沿いなどに多いことから、そのような環境で良く見つかった。今回発見した場所は、やや湿った林内の谷間であり、山地の生息地に環境が似ている。このような環境を探せば、まだ新産地が見つかる可能性があると考えられる。

謝辞

川崎市青少年科学館の高中健一郎氏には、本稿作成に当たってご助言頂いた。ここに感謝の意を表す。

引用文献

- 岸田泰則・坂巻祥孝・那須義次・広渡俊哉(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. p. 324. 学研教育出版, 東京.
- 中島秀雄・山本光人, 2004. チョウ目 (ガ類). 神奈川県昆虫誌 III, p. 949. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中島秀雄・阪本優介, 2018. チョウ目 (ガ類). 神奈川県昆虫誌 2018 III, p. 714. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 杉 繁郎 (編), 1987. 日本産蛾類生態図鑑. p. 18. 講談社, 東京.

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation